定点

広島・呉・岩国

岩国市民は容認していない

二月一〇日に行われた岩国市長選挙において、一七八二票という僅差で福田良彦候補（当時）が新市長に選ばれた。次の日、新聞の紙面は「容認派候補当選」の文字が躍り、あたかも岩国市民が容認に転じたかのような言葉が飛び交った。しかし、福田候補は選挙時から「国の言いなりにはならない」と表明し、選挙直後も「反対派の人たちの声に耳を傾ける」と言い続けている。現在三月定例市議会が行われているが、今日まで明確に「容認」が表明されたわけではなく、曖昧な態度を取り続けている。しかし、その一方で、三月二一日には、日本政府は三五億円の新市庁舎建設費補助金を執行しようとしており、三月二四日岩国市議会最終日に福田新市長は補正予算案を提案する予定である。建設費補助金だけではなく、再編交付金も近々執行されるであろう。つまり、今後しばらくの間、日本政府は岩国市民に対し財政面で「福田さんを選んでよかった！」と思わせる作戦に出ると思われる。今回、福田候補が選ばれた理由は、岩国市民が艦載機の受け入れを容認した訳ではなく、昨年三月定例市議会より五回にわたって井原前市長が提案する予算案が否決され続けるという状況の中でこのままでは二〇〇八年度予算案が可決されないという閉塞状態からなんとか抜け出したいという市民の不安の表れなのである。市長選の出口調査でも艦載機移転に容認と答えた人はごくわずかであった。

つまり、これからの岩国と連帯するためにはまず、私たち一人一人が全国に広がっている「岩国市民は米軍再編の容認した」というデマに対して「岩国市民は今も負けずに艦載機移転反対の声を上げ続けていること」を伝えていかなければならない。

そのことは、三月二日に岩国市内で行われた「艦載機が来たらどうなるの？～厚木基地周辺住民を招いて～」という市民集会（住民投票の成果を活かす会主催）に二五〇人の市民が集まったことにも表れている。福田新市長が伝えていない艦載機が来たら実際に岩国市民の生活がどうなるのかということを岩国市民に伝えていくと同時に艦載機が移駐してくる以前に現在駐留している戦闘機の爆音が違法なものであることを岩国市民と共有し、司法の判断を仰いでいく予定である。

（大月純子／ピースリンク広島・呉・岩国）

札幌

ピースウォークとピーストーク集会

イラク攻撃から五年経った三月二〇日、札幌では午前中にピースウォーク、午後にはピーストーク集会があった。午前中は少し肌寒かったが、四五〇人ほどが参加し、久しぶりに大きめのピースウォークとなった。午後の集会は一〇〇人ほどが参加、一人三分で多くの人に発言してもらった。

ピースウォークは、イラク派兵差止北海道訴訟原告団・弁護団（以下、イラク訴訟）とほっかいどうピースネット、北海道平和運動フォーラム、有事法制反対道民連絡会の四者が共催。ピーストーク集会は、イラク訴訟とほっかいどうピースネットの共催。札幌ではここ数年、反戦平和や憲法九条などについて大きめの集会をする時には、この枠組みで行なうことが多い。昨年できた「女性自衛官の人権裁判を支援する会」も、この枠組みから生まれたと言えるだろう。

このように大きな枠組みが定着してきたことをどう考えるか。

支持政党（民主党と共産党、社民党）に違いはあっても、地域レベルでは課題によって一緒にやれる基盤ができてきたのか。それとも、少数となってきた既成「平和運動」が集まって「古臭い主張」を繰り返しているのか。

私は、根がイイカゲンなので、「まあ、両方ありだなあ」と思っている。年に何回かでも準備過程から顔をあわせることで、お互いに、「ここまでは一緒にできる、ここから先はまだ無理だ」という判断基準ができてくる。これがはっきりすれば、お互いを非難しあうことも少なくなる。また、枠組みが固定していても、そこに関わる人たちは年齢もピースウォークでの表現も多様になっている。だとすると「古臭い（原則的な）主張」に新鮮さを付け加えているのかもしれない。

それにしても、なぜピースウォークなのだろう。私は、ピースウォーク出発前集会の司会をしていたのだが、そこで「シュプレヒコール」の確認（というか練習）をする時に「昔風に言えばシュプレヒコール、ではいま何と言うかというとシュプレヒコール」と言ってしまった。これは正直な気持ちで、シュプレヒコールは変らないのに、なぜデモだけはピースウォークと言い換えているのだろうか。シュプレヒコールをするようになったら、もうピースウォークと言わなくても良いような気もするのだが……。

（越田清和・ほっかいどうピースネット）

橋下知事の暴言に抗議／米兵暴行で申し入れ

今年一月二七日、尼崎で「三里塚旗開き」があった。昨年亡くなった三里塚闘争に連帯する会の上坂喜美さんの追悼会映像などが紹介された。この日は大阪府知事選の投票日にあたり、テレビタレント橋下徹が当選した。橋下はコメンテーター当時、核武装論など数々の暴言を吐いたが、その後これらは「話芸」だったと弁解している。とりわけ許せないのは岩国の住民投票に関し、自治体が国政に関与すべきでない、などの非難を当選前も当選後も繰り返している。艦載機移転は住民の直接被害に関わる問題で、地方自治権の放棄に関わる問題である。更に経費削減を口実に、女性総合センターをはじめ府下二七施設の売却廃止の検討にとりかかった。

これらを含め橋下知事就任の二月六日、私たち「しないさせない戦争協力関西ネット」は、岩国問題発言の撤回その他の申し入れを行った。就任後橋下は、いち早く石原都知事を表敬訪問したが、新東京銀行問題のようにその無責任ぶりも見習おうとするのか。

沖縄少女暴行事件に関しては二月一六日、米領事館への抗議申し入れに続き、三月三日扇町公園で抗議集会を開催、約二五〇人が参加した。これらには在韓米軍の犯罪が在日団体から報告され、沖縄事件以後発生したイージス艦「あたご」の漁船衝突事件の抗議、在日米軍被害者の会のアピール、大江・岩波沖縄戦裁判支援連絡会などからのアピールがあった。沖縄戦裁判は三月二八日、大阪地裁でいよいよ判決を迎える。帝国軍隊と同様、自衛隊も住民を守らないことが今回の衝突事件で明らかとなった。

一月二九日、近畿警察局はG8サミット対策と称し、史上最大一三〇〇人を動員して治安弾圧訓練を行い、その後も様々な形で続行している。ありそうもないテロ想定は国民保護法制と共通する。一方私たちはNGOなどと提携し、関西三カ所の閣僚会議に対して集会や学習会など計画を進めている。

（和田喜太郎／しないさせない戦争協力関西ネット）

関西

観測

欠陥機での訓練／訓練施設建設ラッシュ／県民大会

新聞に　日の出　記事が載るほど日照時間の少ない二月が終わり、春の光が充ちてきた。すっかり刈り入れの済んだ畑には若いキビが育ち始めている。

嘉手納基地を舞台に新たな即応訓練が始まった。韓国・群山基地より飛来したF16戦闘機一二機が有事のシナリオを基に、部隊派遣の手続き・戦闘機の運用態勢・基地要員の運用など航空団の総合的な能力を評価する監査を受けるという。その後に予定される空対空訓練の相手は折り紙付きの欠陥機F15なんだが、こちらは監査済み？

建設ラッシュの金武町C・ハンセンではレンジ3附近に陸軍特殊部隊限定のライフル射撃場工事が始まりそうだ。沖縄自動車道も伊芸集落も一二〇〇メートルの射程距離内の近さだ。建設に反対してきた伊芸区長は「地域に響く演習音はひどく、山火事もある。今でも訓練は過密状態」と強く抗議する。都市型訓練施設など住民の闘いで獲得した移転なのに、基地内での玉突き移転によって米軍は新しい施設を手に入れ、住民の危険は変わらないという皮肉な結果を生んでいる。

同基地での陸自第一混成団（那覇）の共同使用も始まり、約一五〇名が海兵隊コンバットタウン（市街地型戦闘訓練施設）で各種地形の通過要領の確認やロープ降下訓練に参加。防衛省は「再編実施」に　合格　した地元に対し交付金の上限額一〇〇％を支払う方針だ。

二月一〇日の米兵による暴行事件に対し、日を置かずに米四軍調整官への抗議行動や、三〇余の女性団体主催による緊急集会が開かれた。その後、フィリピン女性への暴行や家宅侵入事件も相次ぐ中で「米兵によるあらゆる事件・事故に抗議する県民大会」を三月二三日に決定、開催に向けて努力が続けられている。県民の批判は、米軍の「綱紀粛正と隊員教育」や政府の「街灯とパトロール」などのゴマカシに対してのみならず、「素早い対応」に安堵したかのような知事にも向けられている。

（野口裕子／沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック）

沖縄